

振武台記念館整備計画

陸軍豫科士官学校校舎模型および
陸軍軍用機模型の展示、遙拝所の整備

傳田 信夫

軍校1-1

本科 経理

(春日部市)



先般来より朝霞駐屯地側では「振武台記念館を陸軍豫科士官学校の歴史を伝承するに相応しい記念館とする」という方針で、旧軍の史跡遺産を保存継承すべく2年余にわたり、記念館内外にわたる大規模な改装工事を行ってきた。

昨年末中間の1次工事完了のセレモニーが行われた。更に引続き工事を行い、今年10月3日当面計画の完了セレモニーを木野村駐屯地司令主催の下、陸士「振武台連絡会」「偕行社」の関係者・東部方面関係各部隊長・座間司令（傘下にて同上の趣旨の検討を指示されていると聞く）・古河施設隊長（外部舗装など遠地より応援）など参加して行われた。当日は第50回東部方面総監部の創立記念日に当たり、併せて来場の総監招待の武官・民間協力関係者にも見学開放した。

昨年末改装後、日米共同作戦演習が当駐屯地で行われた。振武台記念館は丁度セレモニーの後で改装も一段落しており、関係する防衛相はじめ防大・幹部学校・富士学校その他の学校長、各総監・師団長・参加部隊長・幕僚、更には共同演習参加の米軍司令官ほか高級将校など、最近までに2000人に近い内外の高官が訪れたと聞く。

従来から海外の高級士官の来場参観者は

多く（此の中には振武台を卒業した韓国の将軍も多い）、在日駐留米国最高司令官は着任の都度当地を訪れている。海外来場者を配慮し今回は記念館の内外に説明の標識を日米両語で記載し、国内外の高官に昔此の地に「陸軍豫科士官学校」があり、若い青年士官が巣立って行ったことを認識せしめた意義は大きい。

3年に一度の陸上自衛隊の観閲式は当駐屯地の練兵場で行われ、首相・両院議長高官が観閲官として、必ず朝霞自衛隊を訪れる。そして司令が対応し、駐屯地の歴史を説明するのが常である。

現在我が国の中枢指導者はその大半が戦後生まれで、士官学校の意義・存在すら知らない人が大半である。我等の聖地を永劫に意義あるものとすべく、これらの人々に直接見て・認識し理解して貰うことが重要である。彼等に認識して貰うことが、今後の記念館の維持管理に関わるさらなる予算投入が生まれるものと考えられる。

一方、私共振武台縁の人々も、戦後65年が過ぎ、その最年少者も齢80を越す状態であり、一部の期では組織的な運営も儘ならぬ状態にあることも仄聞する。何かしたいと言う先輩期の意向も汲み取り、最後輩の我々の期で最後の仕事として次ぎの案件を考え実行すべく準備中であります。

最初に取り上げられたのは高橋昭典 ⑫の提案した振武台記念館に豫科士官学校の校舎等の模型の寄贈である。現在、記念館には同校の模型が展示されているが、いかにも貧弱で修武台記念館に展示されている校舎模型に比べてかなり見劣りがする。さらに川島順 ⑬より陸軍軍用機の模型の寄贈が提案された。振武台記念館には既に飛行機の模型が展示されているが海軍機が大部分を占めている。そこで、一式～五式戦闘機を中心にして大東亜戦争で活躍した陸軍軍用機の模型を寄贈しようとするものであ

る。

60期常幹ではこれら提案を取り上げ、これを検討・実行するために21年9月の常幹で田中正和^⑪を長とする「振武台記念館整備チーム」を立ち上げ、新規提案の実行を推進する事となった。

当面の目標として同チームが纏めた計画は次の通りである。

(1) 陸軍豫科士官学校全容の模型の寄贈：本部、講堂、校舎のみでなく練兵場、射撃場、馬場等敷地内の全施設を含み、電装表示板で案内できるもの。

(2) 陸軍軍用機模型の寄贈：一式～五式戦闘機、新司偵、赤とんぼ、爆撃機等の模型。

(3) 遙拝所の整備：既存の遙拝所に説明用のミニ遙拝所石碑を付設し、日英2カ国語で遙拝所の説明を記載した銘板を設ける。これらの施設の構築には自衛隊施設部隊の協力が得られるものと期待している。

これらの計画を実施するための工期は約2か月と見込まれているので、これから関係各期と相談・了解を得た上で自衛隊と協議しながら実行し、この春までには実現したいと企画中である。

今回の計画については先輩期は非常に喜んでおられ、更には激励を賜り、偕行誌上でも賛辞を送って頂いている。

61期に対しては、60期－61期合同委員会で、上記60期作業チームの計画の大要を提案し、協力を依頼しているが、近くその結論が得られる予定である。

自衛隊関係者も正に国を守らんとする気概では先輩には負けませんと、これらの計画には積極的に協力をして頂き、心の通った計画の実行と今後の保全は十分期待できるものと確信している。

しかし、予算面では嘗て振武台記念碑銘板復元の際、瞬時に全国の陸士関係者1559名から、520万円余を寄付して頂い

た時代は過去のものとなり、現在では非常に厳しい状況にある。現在、60期、61期の若い期が中心になり、予算の捻出を検討中である。

旧軍関係の施設保全のセレモニーや振武台関係の行事には、最近防大など自衛隊幹部OBの方々をお誘いしていますが、回を追うごとに参加者が増え、我々との心の交流を通じて関係が益々親密化している。

最後に、偕行会の発展と共に振武台記念館の伝承の面でも、多くの方々の理解と協賛を得て進展するであろうと意を強くしている次第である。